

こども通信

今冬は少雪。そして暖冬でした
(まだ終わってはいませんが)。

1月とついに道路には雪がありません。雪のない生活は快適です。
子どもの頃、「お正月には凧揚げ
て」と歌うのは別の国の話だと思っ
ていました。今ではそんな勘違いを
することもなくなりました。
2月も暖かく、春が早く
やってきそう。桜も早く咲く
かな？

昨年、連続テレビ小説「虎

に翼」をよく見ていました。普段は
テレビのドラマはあまり見ないので
すが、内容に惹かれました。

日本で最初の女性弁護士、三淵嘉
子をモデルに、法律家として筋を通
す話。史実を元に作られたドラマで
す。

とりわけ興味深かったのは「原爆



である」と。

「国家は自らの権限と自らの責任に
おいて開始した戦争により、国民の
多くの人々を死に導き、傷害を負わ
せ、不幸な生活に追い込んだのであ
る。」

「しかしながら、それはもはや裁判
所の職責ではなく、立法府である国
会及び行政府である内閣において果

塚田こども医院

小児科・アレルギー科
漢方内科

上越市栄町 2-2-25
TEL 025-544-7777(代)
025-544-7779(保育室)
FAX 025-544-8456

ホームページ
www.kodomo-
iin.com



裁判」の箇所でした。彼女の原爆被
害者に対する気持ちがよく分かりま
す。(以下、判決文より)

「原子爆弾による襲撃が仮に軍事目
標のみをその攻撃の目的としたとし
ても、原子爆弾の巨大な破壊力から
盲目的襲撃と同様の結果を生ずるもの

である以上、広島、長崎

両市に対する無差別攻撃
として、当時の国際法か
らみて、違法な戦闘行為

であると解するのが相当
である」と。

感染症情報

インフルエンザが例年より早く流行期に入り、年末から大流行になりました。1月はずっと流行が続いていました。2月もしばらく流行が続くことでしょう。今はA型がほとんどです。今後B型が出現するかもしれません。十分気をつけてください。

新型コロナウイルスも少しずつ発生が増えています。

マイコプラズマ感染症がまだ流行しています。熱と咳が主な症状です。専用の抗生剤が必要です。

感染性胃腸炎の発生が増えてきました。吐いたり下痢をしたりする感染症で、特に嘔吐が強いと脱水になることがあります。冬場に流行することが多く、今の季節は注意が必要です。

RSウイルス感染症の発生は少なくなりました。ヒトメタニューモウイルス感染症を時々見かけています。いずれも気管支炎を起こすウイルスで、繰り返しかかることがあります。

プール熱(アデノウイルスによる咽頭結膜熱)の患者が少しあります。溶連菌感染症も時々発生があります。いずれも喉の痛みが特徴です。溶連菌感染症には抗生剤が必要です。2、3日で症状は治りますが、合併症(リウマチ熱、急性腎炎)の予防のために10日ほど長く飲むことが求められています。

水痘が若干発生しています。2回のワクチン接種により軽く済んでいる印象です。

たさなければならぬ職責である。」

「われわれは本訴訟を見るにつけ、
政治の貧困を嘆かずにはおれないの
である。」

主文は「原告等の請求を棄却する」
であったが、そこに至るまでの理論
展開は立派でした。

翌日の全国紙には「原爆投下は国
際法違反」の大きな見出しが出まし
た。その後、国は被爆者救済に動き、
国際的司法においてもこれを先例と

して位置付けられています。

「オンライン資格確認義務の不在」
を求めた訴訟では、国(被告)
の言っていることをそのままぞつ

た判決でした。原告の主張に対して、
なぜそれが通じないのか、その論拠
はありません。杜撰な裁判です。

私たちは高裁に上訴しています。
今度こそ、私たちの訴訟を真正面か
ら取り上げて欲しいと思います。

☆数ある三淵本で、判決文の全文が載っているのは山我 浩著「原爆裁判-アメリカの大罪を裁いた三淵嘉子」でした。

流行

新たな感染症？

中国で新しいウイルスが流行っていて、新たなパンデミックを起こすのではないかと言われています。ヒトメタニューモウイルス感染症です。

ちょうど春節に重なり（今年は1月28日～2月4日）、中国国民が大移動。日本へも多数来られるので、ヒトメタニューモも一緒に入ってくるのではないかと言われています。でも、必ずしもそうではないようです。なぜなのでしょう。

このウイルスは通常は各種の感冒症状を起こします。咳、鼻水、熱などです。RSウイルスに似ていて、気管支炎症状が主となることが多いです。つまり咳が多く、熱が出てきます。

RSウイルスでは2歳まで一度はかかると言われています。それよりやや年齢が上の子になりやすく、小学校に上がるまでに2回、3回とかかるようです。

症状は次第に軽くなり、普通の感

冒症状で終わることが多いようです。

このウイルスは2001年にオランダで発見された、比較的新しいウイルスです。といつても、200年から300年前に発生したと言われ、昔の血清（冷凍保存してあったもの）から抗体が見つかっています。

今では全世界中に存在し、通常よく見られるものになっています。

「中国で発生」といつても、新型コロナウイルスのような新規のウイルスではありません。さらに、すでに日本でも流行っているウイルスです。今後流行が拡大することは考えにくいです。

ヒトメタニューモに「特效薬」はありません。症状に依じて治療する「対症療法」になります。気管支炎がひどい場合には、入院のうえ酸素が必要になる場合もあります。しかし、大半は数日の治療で回復してきます。あまり心配する必要はないようです。

また、ワクチンはまだ作られておらず、予防には人との接触を遠ざけることが一番です。飛沫感染するの

でマスクなどを十分にしてください。接触感染もするので、手洗いや、遊具などのアルコール消毒も必要です。

といつても保育園など、子どもたちの集団生活の中で、どこまで予防することができるか、不安があります。完全を求めることはせず、できる範囲で行うことが大切です。

●インフルエンザ脳症

インフルエンザが流行っています。それによる脳症も、発生することがないか、ハラハラしている毎日です。

インフルエンザ脳症は年間で200人ほど発生しています（2023/24シーズンでは189人）。決して珍しくはありません。

内訳は12歳以下が7割から8割で、そのうちの半数ほどは小学生です。予後は軽度～中等度後遺症が14%、重度後遺症が7%、死亡が6%。後遺症なく治癒したものは71%でした。

インフルエンザ脳症になつても、

多くは治癒しています（近年、治癒率が上がっています）。しかし不幸な転期になる患者さんは、決してなくなつてはいけません。インフルエンザを軽く見てはいけません。

脳症の症状は、5歳以上では頭痛、嘔吐が多く、それ以下ではけいれんが多いです。しかし、インフルエンザは高熱があり、熱が高いと頭痛を伴うことが普通です。嘔吐することもあるでしょう。熱性けいれんもよく見かけるので、それらだけでは脳症とはいえません。

しかし、それらがあまりに強く、意識混濁などを伴っている場合には脳症を疑い、直ちに入院のできる医療機関で見てもらうことが必要です。

●医薬品の不足

インフルエンザ治療薬であるオセロタミビル（タミフルの後発品）が生産が間に合わず、一時出荷停止になりました。困ったことです。

いつまでこんなことが続くのでしょうか。安定した供給になるよう、強く求めたいと思います。